

昭和三十一年(一九五七)年 第一回安井賞候補新人展

(主催) 国立近代美術館／安井曾太郎記念会
十一月十一日～二十四日 東京国立近代美術館

受賞作品は、原則として、第三十一回までは東京国立近代美術館が購入・收藏し、第三十二回以降は横浜美術館が購入・收藏された。

第一回安井賞受賞者・作品 田中 岑たかし (春陽会会員) 《海辺》

・第二回安井賞候補新人展

六十六作家 (候補作品百十七点／陳列作品六十六点) 授賞対象作品

・春陽会から推薦、選出された作家

吉川 晃／五味秀夫／沢田哲郎／田畔司郎／田中 岑／福田庸一

安井賞 安井曾太郎(二八八八—一九五五)の没後開催された遺作展(一九五六年四月～六月)の終了後、遺作展委員会が安井の画業を記念した美術賞を設定することにし、賞の選考・授与等の事業を行うため、一九五七年に財団法人安井曾太郎記念会が設立された。安井賞は、安井曾太郎の画風に基づき、具象的な作品を評価対象とした。安井賞は新人洋画家の登龍門とされ、多くの優秀な作家を輩出した。一九六六年、多様化する日本の現代美術の状況を顧み、具象的傾向の作家の発掘を目的とする安井賞展はその使命を達成したとして、第四十回展(一九九七年)で打ち切りとなった。第一回～十一回展(安井賞候補新人展)、第十二回～四十回展(安井賞展)。

授賞のための作家の選出は公募ではなく、美術団体と美術評論家等の有識者から推薦された作品を収集展示して選考する方式であり、作品の推薦方法や、選考委員の人数・構成などは度々変更された。被推薦作家の年齢制限も、当初は四十歳以下であったのが、一九六二年の第六回以降は五十歳以下に引き上げられた。